

Title	コッカ教授の研究集会
Author(s)	大野, 英二
Citation	経済論叢 (1979), 123(3): 202-205
Issue Date	1979-03
URL	http://dx.doi.org/10.14989/133763
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

經濟論叢

第 123 卷 第 3 号

- マルクスにおける生産諸力の概念について(3)……平 田 清 明 1
- 慣習保有地における
旧体系の壊類と土地私有への傾斜……………尾 崎 芳 治 16
- 二つの価格理論……………有 賀 裕 二 41
- 公共事業と租税負担配分論……………仁 連 孝 昭 63

経済学会記事

昭和 54 年 3 月

京 都 大 学 經 済 學 會

コッカ教授の研究集会

大 野 英 二

京都大学創立七十周年記念後援会の招聘によりビーレフェルト大学歴史学部のユルゲン・コッカ Jürgen Kocka 教授が京都を訪れ、3月中旬より約1ヵ月間、比較社会史、ことに現代ドイツ社会史の研究にかんして、わが国の研究者との交流を深めた。

コッカ教授は1941年4月19日に現在のチェコスロヴァキア領のハインドルフ Haindorf に生まれ、戦後難民として、メクレンブルクを経て、エッセンへ移住した。その後、コッカ教授は、マールブルク、ヴィーン、アメリカ合衆国のノース・カロライナ (チャペル・ヒル)、ベルリン等の諸大学で歴史学と政治学を学び、1965年にノース・カロライナ大学で政治学修士を取得し、1968年にベルリン自由大学でドクトル学位を取得した。学位論文は翌年大著『ジューメンズの企業管理と職員層1847-1914』(Unternehmensverwaltung und Angestelltenschaft am Beispiel Siemens 1847-1914. Zum Verhältnis von Kapitalismus und Bürokratie in der deutschen Industrialisierung. Stuttgart 1969) として公刊された。ついで、1972年にミュンスター大学で歴史学の教授資格を取得しており、教授資格論文も一昨年『ファシズムと民主主義との間の職員』(Angestellte zwischen Faschismus und Demokratie. Zur politischen Sozialgeschichte der Angestellten: USA 1890-1940 im internationalen Vergleich. Göttingen 1977) として公刊されている。コッカ教授は1973年以降ビーレフェルト大学歴史学部の社会史の正教授であり、現在まだ37歳の若さである。しかも、著書としては、上記の他に、『戦時の階級社会』(Klassengesellschaft im Krieg. Deutsche Sozialgeschichte 1914-1918. Göttingen 1973); 『ドイツ社会史1870-1914』(G. A. Ritter と共編) (Deutsche Sozialgeschichte. Dokumente und Skizzen Band II: 1870-1914. München 1974); 『社会史研究資料集』(G. Hohorst, G. A. Ritter と共編) (Sozialgeschichtliches Arbeitsbuch. Materialien zur Statistik des Kaiserreichs 1870-1914. München 1975); 『ドイツの工業化のなかの

企業家』(Unternehmer in der deutschen Industrialisierung. Göttingen 1975);『学習資料・歴史』(Studienmaterial. Geschichte. München 1976);『社会史』(Sozialgeschichte. Begriff-Entwicklung-Probleme. Göttingen 1977) 等があり、その旺盛な研究活動はまさしく瞠目に値する。

ところで、コッカ教授は京都を訪れるにあたって以下の4つのテーマについて草稿を用意してきた。

- (1) 「社会史—構造史—社会構造史—歴史的社会科学、概念と方法との諸問題」
(Sozialgeschichte—Strukturgeschichte—Gesellschaftsgeschichte—Historische Sozialwissenschaft. Begriffliche und methodische Probleme)
- (2) 「ドイツの職員と国民社会主義の興隆」(Deutsche Angestellte und der Aufstieg des Nationalsozialismus)
- (3) 「ドイツの工業化における地域的分化と企業家の役割」(Regionale Differenzierung in der deutschen Industrialisierung und die Rolle von Unternehmern)
- (4) 「19世紀末葉と20世紀初頭のドイツ社会史の諸問題——特に第1次世界大戦を考慮して——」(Probleme der deutschen Sozialgeschichte im späten 19. und frühen 20. Jahrhundert mit besonderer Berücksichtigung des Ersten Weltkriegs)

京都大学経済学会は、京都ドイツ文化センター、ドイツ現代史研究会、土地制度史学会近畿部会の後援を得て、3月22-23両日に、経済学部特別講義室において、(1)(2)のテーマにかんして、2回の研究集会を主催した。

3月22日午後2時から開催されたコッカ教授の社会史の概念と方法にかんする報告は、中村幹雄教授(奈良女子大)の司会、早島暎助教授(関学大)の通訳により行なわれた。コッカ教授は、社会史を狭義の社会史(部分領域の歴史としての社会史)と広義の社会史(社会全体の歴史としての社会史、社会構造史)とに分ける。構造史はあくまでも考察方法であって、社会史は当然に構造史的考察方法を援用するとしても、構造史としての社会史なるものは、対象領域に即して分たれた狭義および広義の社会史と並存する独自の社会史の分野を形成し得ないと主張された。歴史的社会科学の用語法についても同様で、このばあい歴史学の考察方法としての社会科学の理論がますます重要な役割を演じ、体系的社会科学に接近して行くことになる点が指摘された。

ところで、社会史研究のために理論が用いられるばあい、(1)階級や身分等への隣接科

学の概念やモデルが援用されるばあいが多く、(2)さらに精密な計量的方法が援用されるばあい、(3)またマックス・ヴェーバーにより展開された理念型の方法が援用されるばあいが挙げられ、これら3つの手法のうち、コッカ教授が採る立場は第3の理念型の方法の援用であることが示された。

報告後に70名を越える参加者のなかから、平井俊彦、平田清明、出口勇蔵、木谷勤(大阪教育大)、上山安敏の諸教授をはじめ奥田隆男氏、小畑清剛氏たち院生、学生の間からも活潑な質問が提出され、午後6時頃盛会裡に散会した。

3月23日午後2-6時の間開催された研究集会では、コッカ教授は、野田宣雄助教授の通訳のもとに、ドイツの職員層にかんして報告した。主要な論点は、労働者と職員との区別におけるドイツの特殊性の歴史的な考察にあり、3つのテーゼが提示された。第1に、労働者と職員との区別は、西ヨーロッパおよびアメリカ合衆国と比較して、ドイツでは1933年まで特に鋭く現われており、第2に、このドイツにおける身分的差別観念は、ドイツの近代化の特殊性から説明されるべきであり、なかんずくドイツにおける前工業的残滓の根強さが問題となる。さらに第3に、このような労働者と職員との区別の残存によって、職員は国民社会主義の興隆の社会的基盤の1要因をなした。これらの3つのテーゼは、西ヨーロッパ、特にアメリカ合衆国との比較のなかで展開されており、ドイツにおける前工業的、官僚制的、身分制的残滓のもつ影響力がとりわけ重視されていた。

報告後の質疑は、山口定教授(大阪市大)と野田宣雄助教授との通訳により行なわれ、約60名の参加者のなかから、菱山泉、山口和男(甲南大)、鼓肇雄(名大)、平田清明、上山安敏、大林信治(阪大)、筆者の諸教授をはじめ多くの質問が提示され、第1日目と同様、討論のなかで、いっそう展開された論点も少なくないが、これらに言及することは割愛されねばならない。

一昨年のヴェーラー教授の研究集会のばあいと同様、コッカ教授の研究集会にも、経済学、政治学、法学、歴史学、社会学等のさまざまな専門分野の研究者が参加して、比較社会史という研究領域にふさわしい、国際交流と学際交流のなかで、共通の問題関心をもつ研究者の間のコミュニティーの形成のために多人の成功を取めることができた。

なお、これらの研究集会を準備するために支援して下さった多くの方々のうち、特に京都ドイツ文化センターの所長ハインツ・ユルゲンス氏 Heinz Jürgens、三鼓秋子氏、

経済学部調査資料室の細川元雄氏，大月誠教授（竜谷大），藤本建夫助教授（甲南大），
および野田敬一氏にたいし謝意を表したい。

—1979・4・11 記—